



「震災資料」からわかること

—神戸大学震災文庫の活動から—



「2階事務室、時計が震災時間を表示しストップ」
(神戸大学附属図書館震災文庫蔵)

30年前に発生した阪神・淡路大震災では、震災に関するさまざまな記録＝「震災資料」をのこす取り組みが広がりました。現在も続く震災資料をつたえる活動と、のこされた資料から何がわかるのかを考えてみたいと思います。

神戸大学大学院人文学研究科 特命助教

講師 跡部 史浩 氏

12月11日(木) オープンセミナースペース
18:30～19:30